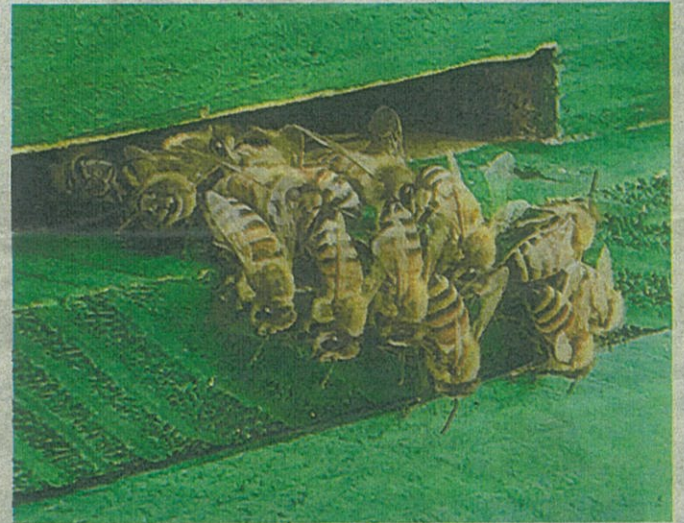


ふくしま農業女子ネットワーク 農女びより



避難させ、無事に生き残ったミツバチ

る。農産品を使った加工品の共同開発や情報発信、経営力向上、販路拡大などに連携して取り組む。メンバー、応援団となる企業・団体を随時募集している。URLは<https://www.fuku-girl.jp/> 問い合わせは事務局 県農業担い手課 電話024(521)7340へ。

◆ふくしま農業女子ネットワーク（愛称：百笑一姫♡Fukuがある）
農業女子同士の交流・連携を深め、技術の向上を図ろうと、県内の女性就農者や就農希望者65人で構成。福島民報社をはじめ、県内の30企業・団体が「応援団」として登録してい

折笠 ルミ子さん（郡山市） 初心に返り前に進む



郡山市田村町で養蜂業を営み、コマや野菜を作っています。台風19号が福島県を直撃した10月12日深夜。けたたましい携帯の災害速報音と増水した川のごう音が幾度となく繰り返され、一睡もできずに夜明けを迎えました。

13日朝、2階の窓から見た外の光景は一面、湖。言葉を失いました。水が引いた後に田畑を見に行くと、穂が実っていた水田と収穫間近だった野菜畑は流され、なくなっていました。ミツバチは場所を移し無事でしたが、蜂蜜に関する資材は全て使えない状態になっていました。あまりの状況に、目の前の現実を受け止められない自分がいました。一週間後、彼女に会うまでは…。

「こんにちは。蜂蜜買いにきました！」明るく弾んだ声で登場したのは、以前からお約束していた福島大学の学生さん。卒論に関する取材ということで、まだまだ道路状況の悪

い中、足を運んでくれたのです。ふくしま農業女子ネットワークや養蜂業の話をする中で、彼女から質問が続きます。「どうして養蜂をやると思ったのですか」「大きな被害を受けてしまいましたか、これからどうするのですか」。その問いに私は「あっ！」とわれに返ることができました。「何もなくなった今こそ、初心に返ればいいんだ！始めた時

も何もなかった。もう一度、やろう！」と。大切なことに気付かせていただきました。若い彼女に会えた

ことに感謝です。若い世代の方にとって農業は、まだまだ魅力を感じてもらえない職業

かもしれません。だからこそ、災害でいつまでも落ち込む姿を見せるわけにはいけません。あの東日本大震災だって、乗り越えて頑張ってきたのですから。これから復活していく私たちの姿を見たら、うれしいですね。

◆プロフィール◆ 伊達市保原町出身。夫と夫の両親（祖母と愛人アンジュ）と暮らす。義父と養蜂を営むほか、野菜やコマの栽培も行う。「Orivy's HONEY（オーリーブズハニー）」のブランド名で蜂蜜や6次化商品を開発（販売）している。毎月8の付く日（8、18、28日）のいずれか1回、郡山市鶴見垣のカフェール「キャド」でイベントを開催。